

第 43 回日本原子力学会バックエンド部会全体会議議事録

日時:2015 年 9 月 10 日(木)12:00～12:30

場所:静岡大学静岡キャンパス 共通教育棟 E 会場 A201

議事内容

1.新堀部会長挨拶

2. 平成 27 年度活動中間報告

2.1 企画報告

2.1.1 企画 A

①大会・年会における企画セッション

・2015 年秋の大会

バックエンド部会企画セッション(日仏合同セッション, 国際活動委員会共催)は,「廃止措置に向けた原子力施設における放射能特性評価」として開催することを報告した。プログラムの概要は以下の通り。

・9 月 10 日(木)13:00-14:30	E 会場	座長:(JAEA)林道 寛
1) Experience of the radioactivity inventory evaluation in NPP in Japan (Experience in JPDR)		島田太郎(JAEA)
2) Radiological characterization for commercial nuclear power plant in Japan		田中健一(IAE,JAPC)
3) Sampling and analysis of BSW concrete of commercial nuclear power plant		鳥居和敬(清水建設)
4) AREVA's D&D experience, from planning to waste conditioning and management		François ROUX (AREVA NC)

・2016 年春の大会

2016 年 3 月 26 日(土)～28 日(月)に東北大学川内キャンパスで開催される 2016 年春の大会での企画セッションについて, 企画のアイデア・希望を運営委員まで連絡するよう依頼した。(10 月末まで)

②プログラム編成

2015 年秋の年会のプログラム編成について, 以下の編成委員のご尽力を得て行ったことを報告した。

コード	専門分野	WG リーダー	WG メンバー
405-1	放射性廃棄物処理	榊原哲朗(JAEA)	榊原哲朗(JAEA) 川寄透(日立GE)

405-2	放射性廃棄物処分と環境	藤井直樹(原環センター)	藤井直樹(原環センター) 稲垣学(NUMO) 斉藤拓巳(JAEA) 三枝博光(JAEA) 川寄透(日立GE) 千田太詩(東北大)
405-3	原子力施設の廃止措置技術	北村高一(JAEA)	北村高一(JAEA) 田中宏和(三菱マテリアル)

2.1.2 企画 B

第 31 回バックエンド夏期セミナーの開催概要, アンケート結果を報告した。

- 日時:2015 年 8 月 5 日(水)～8 月 6 日(木)
場所:北海道 旭川市 道北経済センタービル
参加者:90 名(登録 96 名)
テーマ:今後の放射性廃棄物処分のあるべき姿
- 講演資料は部会ホームページ(夏期セミナー)にて掲載予定
- 講演再録, セミナー参加記が部会誌次号に掲載される予定
- 優秀なポスター発表に関し, 表彰状を授与(バックエンド部会優秀講演賞)
東海大学 松原 竜太
「系のギブスエネルギー変化を用いたガラス固化体溶解速度評価の試み」
NUMO 西尾 光
「処分地選定のための地質環境調査技術の実証研究
ー沿岸域堆積軟岩地点における地質構造モデルの構築ー」

・今後, アンケート結果を元に来年のセミナーについて(開催場所, 内容など)検討予定。

2.1.3 企画 C

EAFORM, AESJ のポジションステートメントについて報告した。

①東アジア放射性廃棄物管理フォーラム (EAFORM)

- 5th EAFORM @Taichung Windsor Hotel, October 25-28, 2015(台湾)
- 同時期に, 台湾における SF 地層処分報告書に関する日本の専門家有志によるワークショップを開催予定

②ポジションステートメント委員会

既存の「高レベル放射性廃棄物の地層処分」(AESJ-PS003)及び「クリアランス」(AESJ-PS011)の修正案をバックエンド運営小委員会内で可決, 承認。

2.2 広報報告

部会 HP 小委員会活動, H27 年度週末基礎講座の予告について報告した。

①H27 年度 部会 HP 小委員会活動について

(1)部会ホームページの管理・運用([http:// nuce.aesj.or.jp](http://nuce.aesj.or.jp))

- お知らせ・会議案内：夏期セミナー開催案内掲載
- 部会誌「原子力バックエンド研究」記事・論文等の公開
- 夏期セミナー・週末基礎講座：プレゼンテーション資料の掲載
- 部会表彰：受賞者リストの公開 等

(2)バックエンド部会情報メールサービス(メーリングリストによる情報連絡)

配信実績：H27年度 18件(4/1～8/31)， 配信先： 490名(H27.8/31現在)

メール配信ご希望の方、アドレスの変更があった方は広報担当までお知らせ願いたい。

(3)ホームページ小委員会メンバーの紹介

都筑 康男	原子力安全推進協会	広報委員(2014～)	HP 更新およびメール配信等の窓口, 運営小委員会との連絡調整
北村 暁	原子力機構	広報委員(2015～)	同上
佐々木 隆之	京都大学		運営全体の俯瞰, 企画・提案
下田 紗音子	三菱マテリアル		部会情報メール メーリングリスト管理, メール配信
佐原 聡	原環センター		HP サーバー運用・管理(主担当)
平野 史生	原子力機構		HP サーバー運用・管理

②H27年度週末基礎講座 予告

開催目的：

- ・放射性廃棄物の処理処分などの原子力に関するバックエンド分野の基礎的な知識を身につけていただくことを目的として開催いたします。また、参加者相互の交流の機会を提供するものです。
- ・当分野に興味をお持ちの学生の皆さまや、新たに業務や研究に携わる方々だけでなく、すでにこの分野でご活躍の方々に、改めて関連する知識を確認されたい方など、広くご参加いただけます。

日程：

平成 27 年 11 月 7 日(土) 午後 ～8 日(日)

場所：

東北大学大学院工学研究科量子エネルギー工学専攻 講義室あるいはセミナー室

プログラム (調整中)：

詳細は、近日中に部会HP、部会情報メールでお知らせいたします。

2.3 出版報告

部会誌「原子力バックエンド研究」, 出版小委員会の体制強化について報告した。

①部会誌「原子力バックエンド研究」

・1号発行 (Vo.22 No.1)

・Vol.22 No.1 (部会 HP 公開:2015 年 6 月)

巻頭言:バックエンド分野を担う将来の人材育成について 塚本政樹

研究論文:

花崗閃緑岩, 凝灰質砂岩試験片に対するヨウ素, スズの分配係数 邊見 光 他

会議参加記:

日本原子力学会 2015 年春の年会 バックエンド部会, 水化学部会合同セッション

「福島第一原子力発電所 汚染滞留水処理の現状と今後の課題」参加報告 飯田 芳久
会告

平成 26 年度バックエンド部会表彰

バックエンド部会 関連行事予定

②出版小委員会体制の強化

役職等を新たに設置し, 出版に関する諸業務がより円滑に実施できるようにしました

役職	仕事内容	担当
委員長	全体の取り回し・運営小委員会との連絡・会計	電力中央研究所 中田 弘太郎
副委員長	委員長補佐+工程管理補助	戸田建設 関口 高志
編集長	全体の工程管理	京都大学 小林 大志
副編集長	査読付き論文ハンドリング	東京工業大学 鷹尾 康一郎
出版幹事	査読無し原稿ハンドリング	ダイヤコンサルタント 細谷 真一
	事務的な仕事を統括	安藤・間 千々松 正和
編集幹事	レイアウトを統括	日本原燃 見付 樹大
レイアウト担当	レイアウトの実施, 原稿のレイアウト確認	原子力発電環境整備機構 後藤 考裕
		清水建設 中島 均
		三菱マテリアル 黒沢 満
CD 作成	論文の CD 化	日本原子力研究開発機構 石寺 孝充
		原環センター 山田 文香
J-Stage	J-Stage への登録	日本工営 鈴木 弘明
		日本原子力研究開発機構 澤口 拓磨

③部会インの皆様へのお願い

部会員のための部会誌継続のために, ご協力をお願いします

- ・積極的な投稿/寄稿(情報発信の場としての活用)
- ・査読へのご協力
- ・特集号へのテーマのご提案

ご意見/ご要望等は部会ホームページからアクセスして, 下記のメールアドレスにメールを送付してください。(journal@nuce.aesj.or.jp)

2.4 庶務報告

海外発表助成制度, 研究会支援制度について報告した。

①海外発表助成制度

- ・若手研究者の海外発表に関する渡航滞在費を助成
- ・半期あたり原則1名を対象に13.5万円を限度に助成
- ・詳しくは部会ホームページに掲載の募集要領を参照

・平成26年度実績

上期分(2月10日締切) 応募なし

下期分(8月10日締切) 応募なし

・平成27年度実績

上期分(2月10日締切) 応募なし

下期分(8月10日締切) 応募1件

東北大学大学院博士課程1年(Waste Management 2016 米国)

②研究会支援制度

- ・部会員から研究テーマを公募して研究会を設置
- ・研究会の費用を年間13.5万円までを目安に支給
- ・会期は最長3年とし、適宜成果を取りまとめて発表
- ・詳しくは部会ホームページに掲載の募集要領を参照

・平成26年度実績

応募なし

・平成27年度実績

8月末時点で応募なし

2.5 会計報告

①8月度までの収入実績

- ・配分金収入は前期41.7万円から2.1万円の減少（：バックエンド部会所属者数減のため）
- ・参加費収入及び見学会費収入は全て夏期セミナーに伴う収入。
- ・夏期セミナー収入の想定予算150万円(見学会費含む)に対し、本年度実績は約190万円。
→想定予算を大きく超過。(各位の積極的な夏期セミナーご参加に御礼申し上げます)

②8月度までの支出実績

- ・一部の旅費交通費支出、通信運搬費支出を除き、ほぼバックエンド夏期セミナーに伴う支出。
- ・バックエンド夏期セミナーの支出総額は約172万円。
→収入約190万円のため、夏期セミナー全体の収支としては約18万円の黒字。

2.6 規約・内規の改定に関して

部会表彰内規、規程等の標記の統一について審議し、承認された。

①部会表彰内規の改定

主旨

- ・「バックエンド部会功労賞」を追加。
- ・バックエンド部会の発展に顕著な功労のあった個人を対象とする。

審議対象(改定案:アンダーラインの箇所)

(表彰の種類, 対象, 数, 要件)

第3条 部会賞に下記賞を設ける。

(1)～(6) (略)

(7)バックエンド部会功労賞:バックエンド部会の発展に顕著な功労のあった個人を対象とする。毎年2名以内とする。

(表彰時期)

第5条 バックエンド部会功績賞, バックエンド部会業績賞, バックエンド部会奨励賞, およびバックエンド部会論文賞およびバックエンド部会功労賞については, 部会全体会議において表彰する。

②規程等の標記の統一について

主旨

- ・原子力学会事務局より, 標記依頼があった。
- ・学会全体として規定類の整理を進めており, その中で各部会分についても, 文言や表記の統一や整理を図った。

対象規約, 内規

- ・バックエンド部会規約
- ・バックエンド部会内規
- ・バックエンド部会 部会賞表彰内規

2.7 その他

九州大学稲垣先生より, BE 夏期セミナーの開催時期についてコメントがあり, 大学の試験期間の都合上, 夏期セミナーの開催時期をもう少し遅くしてもらえれば, 学生が参加しやすいとのこと。今後, 夏期セミナー担当の企画 B で検討する。

以上